

Ⅲ 世帯員の健康状況

1 自覚症状の状況

病気やけが等で自覚症状のある者〔有訴者〕は人口千人当たり 302.5（この割合を「有訴者率」という。）となっている。

有訴者率（人口千対）を性別にみると、男 270.8、女 332.1 で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「10～19 歳」の 157.1 が最も低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80 歳以上」では 511.0 となっている。（表 12）

症状別にみると、男では「腰痛」での有訴者率が最も高く、次いで「肩こり」、「鼻がつまる・鼻汁が出る」、女では「肩こり」が最も高く、次いで「腰痛」、「手足の関節が痛む」となっている（図 17）。

なお、足腰に痛み（「腰痛」か「手足の関節が痛む」のいずれか若しくは両方の有訴者。以下「足腰に痛み」という。）のある高齢者（65 歳以上）の割合は、男では 205.5、女では 254.5 となっている（35 頁 統計表第 9 表参照）。

（参考）「健康日本 21（第 2 次）」の目標 足腰に痛みのある高齢者の割合の減少（千人当たり）
目標値：男性 200 人 女性 260 人 【2022（令和 4）年度】

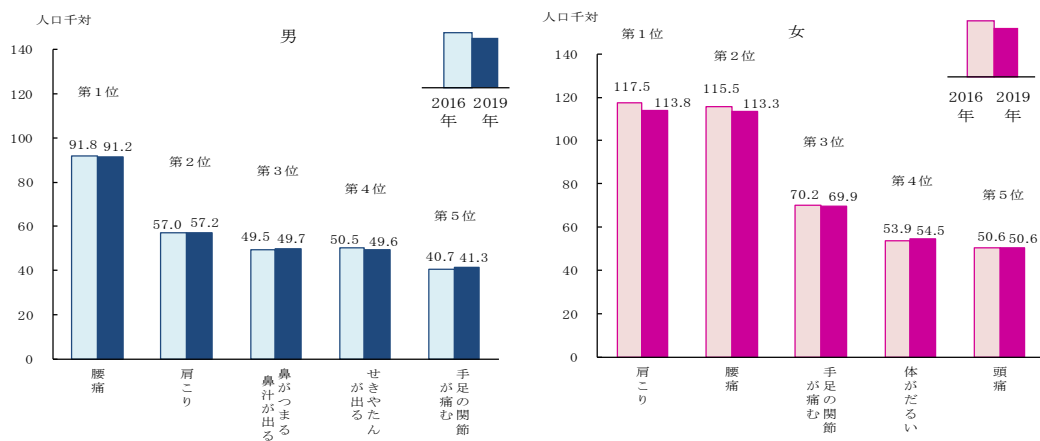
表 12 性・年齢階級別にみた有訴者率（人口千対）

（単位：人口千対）

年齢階級	2019（令和元）年			2016（平成28）年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	302.5	270.8	332.1	305.9	271.9	337.3
9歳以下	178.0	184.9	170.7	185.7	198.1	172.8
10～19	157.1	154.6	159.7	166.5	162.4	170.7
20～29	194.6	159.6	229.3	209.2	167.7	250.3
30～39	249.3	206.2	291.3	250.6	209.0	291.2
40～49	268.4	225.6	310.1	270.0	224.9	313.6
50～59	309.1	260.6	355.2	308.8	263.0	352.8
60～69	338.9	322.3	354.5	352.8	330.6	373.5
70～79	434.1	414.1	451.5	456.5	432.2	477.2
80歳以上 （再掲）	511.0	498.8	518.8	520.2	499.1	533.2
65歳以上	433.6	413.2	450.3	446.0	417.5	468.9
75歳以上	495.5	477.3	508.6	505.2	480.5	522.5

注：1）有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯員には入院者を含む。
2）「総数」には、年齢不詳を含む。
3）2016（平成28）年の数値は、熊本県を除いたものである。

図 17 性別にみた有訴者率の上位 5 症状（複数回答）



注：1）有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯員には入院者を含む。
2）2016（平成28）年の数値は、熊本県を除いたものである。

2 通院の状況

傷病で通院している者〔通院者〕は人口千人当たり 404.0（この割合を「通院者率」という。）となっている。

通院者率（人口千対）を性別にみると、男 388.1、女 418.8 で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「10～19 歳」の 140.1 が最も低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80 歳以上」で 730.3 となっている。（表 13）

傷病別にみると、男では「高血圧症」での通院者率が最も高く、次いで「糖尿病」、「歯の病気」、女では「高血圧症」が最も高く、次いで「脂質異常症（高コレステロール血症等）」、「眼の病気」となっている（図 18）。

表 13 性・年齢階級別にみた通院者率（人口千対）

（単位：人口千対）

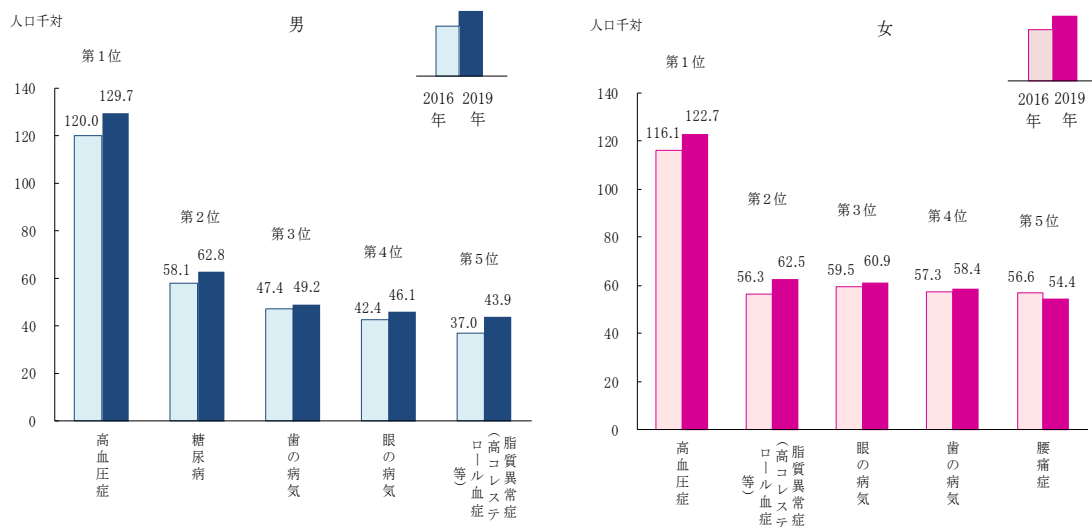
年齢階級	2019（令和元）年			2016（平成28）年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	404.0	388.1	418.8	390.2	372.5	406.6
9歳以下	150.4	162.0	138.0	160.0	172.5	147.0
10～19	140.1	147.1	132.7	141.1	144.3	137.6
20～29	157.1	131.1	182.9	156.7	129.8	183.4
30～39	216.7	188.6	244.0	206.0	180.1	231.3
40～49	287.2	270.8	303.2	275.5	264.3	286.3
50～59	427.5	417.6	437.0	418.8	411.5	425.9
60～69	586.3	593.9	579.1	582.2	583.3	581.1
70～79	706.0	707.9	704.3	708.0	704.2	711.2
80歳以上 （再掲）	730.3	737.1	725.9	730.3	729.1	731.0
65歳以上	689.6	692.8	686.9	686.7	681.7	690.6
75歳以上	730.5	735.7	726.8	727.8	725.1	729.6

注：1）通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員には入院者を含む。

2）「総数」には、年齢不詳を含む。

3）2016（平成28）年の数値は、熊本県を除いたものである。

図 18 性別にみた通院者率の上位 5 傷病（複数回答）



注：1）通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員には入院者を含む。

2）2016（平成28）年の数値は、熊本県を除いたものである。

3 健康意識

6歳以上の者（入院者を除く。）について、健康意識の構成割合をみると、「健康と思っている」（「よい」「まあよい」「ふつう」を合わせた者。以下同じ。）は86.1%となっており、「あまりよくない」10.9%、「よくない」1.7%となっている。

「健康と思っている」の割合を性別にみると、男87.2%、女85.1%となっている。（表14）

表14 性別にみた健康意識の構成割合（6歳以上）

(単位：%) 2019（令和元）年

性	総数	健康と思っている			あまりよくない	よくない	不詳	
		よい	まあよい	ふつう				
総数	100.0	86.1	21.1	18.5	46.5	10.9	1.7	1.2
男	100.0	87.2	22.6	18.5	46.0	9.9	1.7	1.2
女	100.0	85.1	19.7	18.4	46.9	11.9	1.7	1.3

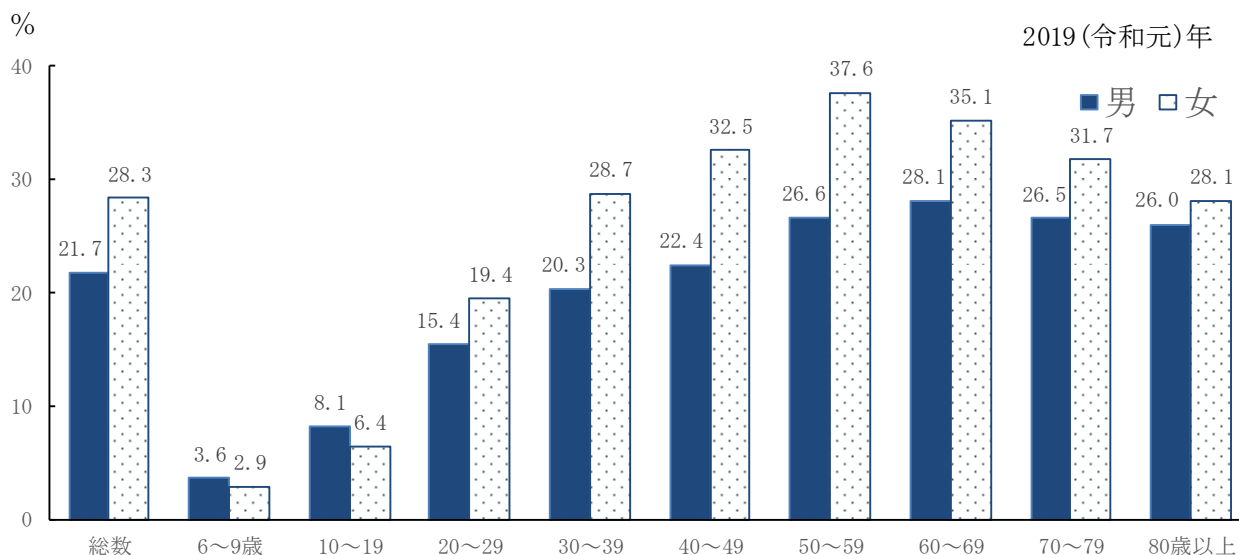
注：入院者は含まない。

4 サプリメントのような健康食品の摂取の状況

6歳以上の者（入院者を除く。）について、サプリメントのような健康食品を摂取している者の割合を性別にみると、男21.7%、女28.3%で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、男は「60～69歳」の28.1%、女は「50～59歳」の37.6%が最も高くなっている。（図19）

図19 性・年齢階級別にみたサプリメントのような健康食品を摂取している者の割合（6歳以上）



注：入院者は含まない。

5 悩みやストレスの状況

12歳以上の者（入院者を除く。）について、日常生活での悩みやストレスの有無をみると「ある」が47.9%、「ない」が50.6%となっている（図20）。

悩みやストレスがある者の割合を性別にみると、男43.0%、女52.4%で女が高くなっており、年齢階級別にみると、男女ともに30代から50代が高く、男では約5割、女では約6割となっている（図21）。

図20 悩みやストレスの有無別構成割合（12歳以上）

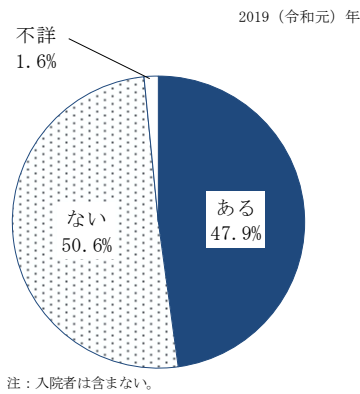
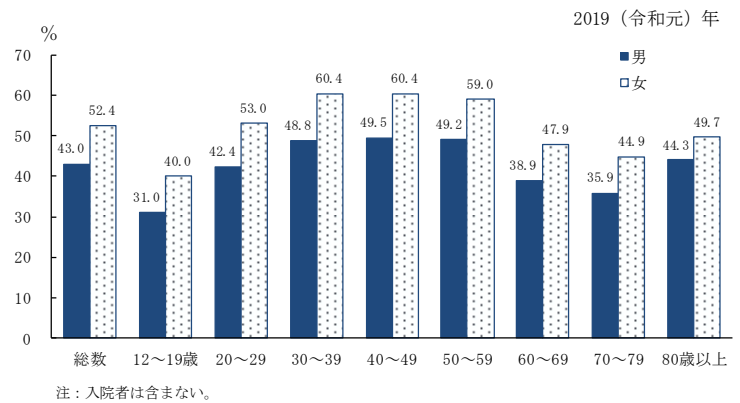


図21 性・年齢階級別にみた悩みやストレスがある者の割合（12歳以上）



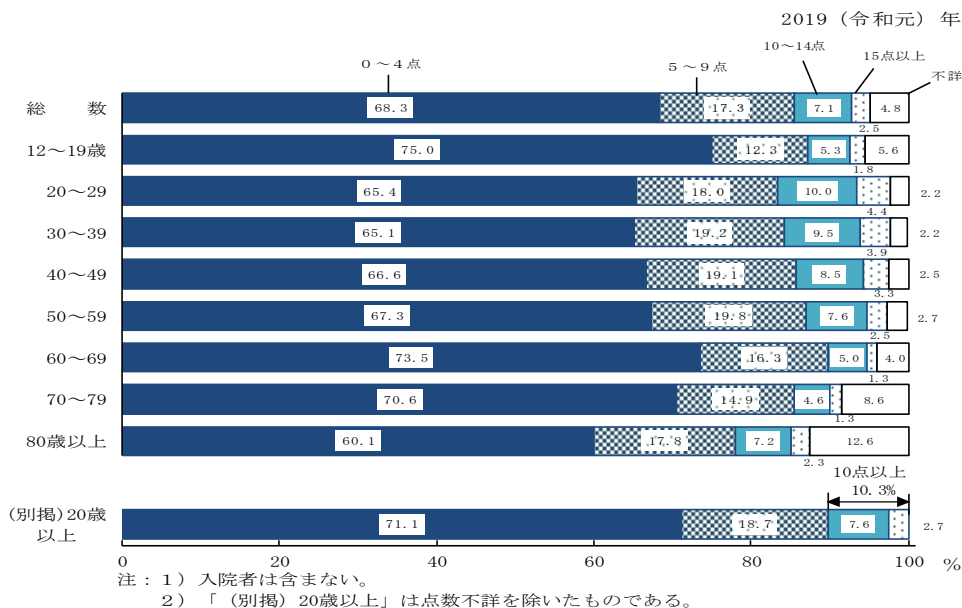
6 こころの状態

12歳以上の者（入院者を除く。）について、過去1か月間のこころの状態を点数階級別（6つの質問について、5段階（0～4点）で点数化して合計したもの）にみると、「0～4点」が68.3%と最も多くなっており、年齢階級別に点数階級をみてもすべての年齢階級で「0～4点」が最も多くなっている。

なお、気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者（20歳以上で、10点以上）の割合は、10.3%となっている。（図22）

（参考）「健康日本 21（第2次）」の目標 気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者の割合の減少 目標値：9.4% 【2022（令和4）年度】

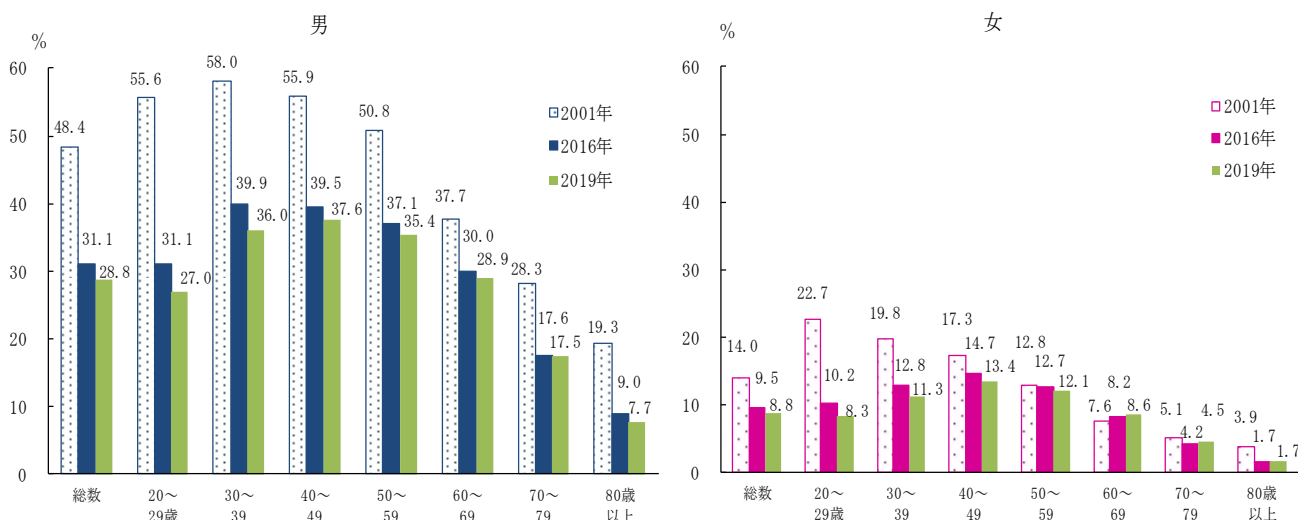
図22 年齢階級別にみたこころの状態(点数階級)の構成割合（12歳以上）



7 喫煙の状況

20歳以上の者（入院者を除く。）について、喫煙の状況を性・年齢階級別に2001（平成13）年と比較すると、「喫煙している」（「毎日吸っている」と「時々吸う日がある」を合わせた者）はほとんどの年齢階級で低下しており、男女とも「20～29歳」が最も低下している（図23）。

図23 性・年齢階級別にみた喫煙している者の年次比較（20歳以上）



注：1) 入院者は含まない。
2) 2016（平成28）年の数値は、熊本県を除いたものである。

8 健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況

20歳以上の者（入院者を除く。）について、過去1年間の健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況を性別にみると、男74.0%、女65.6%で男が高くなっており、年齢階級別にみると、男女ともに「50～59歳」が最も高く、男で81.8%、女で73.2%となっている（表15）。なお、40～74歳人口に占める健診受診率は73.3%である。

（参考）「未来投資戦略2017（中短期工程表）」の目標 各年度における40～74歳人口に占める当該年度に健診（特定健診を含む）を受診した者の割合 目標値：80%以上【2020（令和2）年まで】

表15 性・年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けた者の割合（20歳以上）

性別	総数	2019（令和元）年							
		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	（再掲） 40～74歳
総数	69.6	68.4	69.1	76.4	77.4	70.3	64.7	53.3	73.3
男	74.0	70.9	77.9	81.4	81.8	73.3	66.0	56.0	77.2
女	65.6	65.9	60.5	71.5	73.2	67.4	63.5	51.6	69.7

注：入院者は含まない。

9 がん検診の受診状況

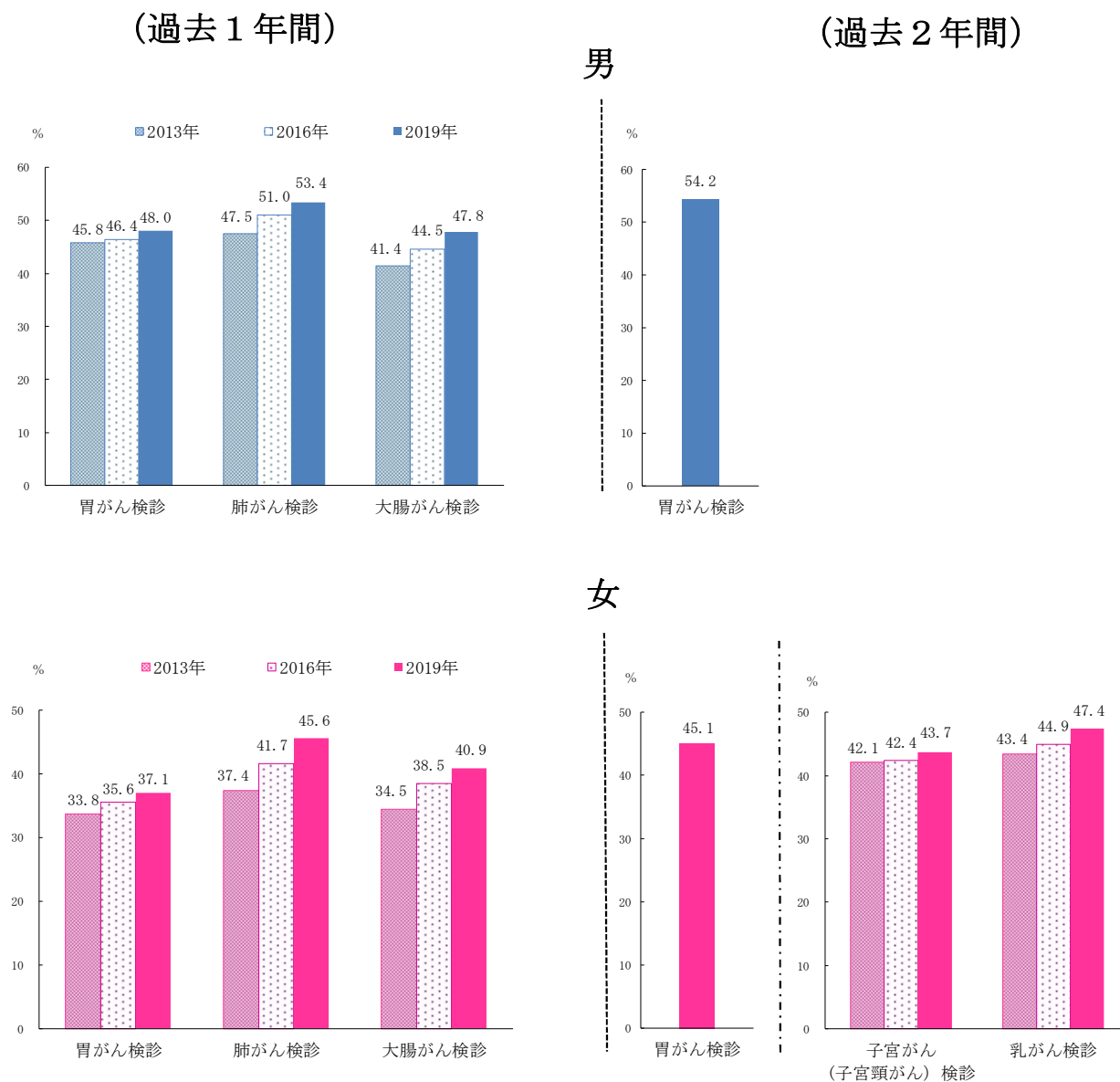
40歳から69歳の者（入院者を除く。）について、過去1年間に胃がん、肺がん、大腸がんの検診を受診した者の割合を性別にみると、男女とも「肺がん検診」が最も高く、男で53.4%、女で45.6%となっている。

過去2年間に胃がん（50歳から69歳。入院者を除く。）、子宮がん（子宮頸がん）（20歳から69歳。入院者を除く。）、乳がん（40歳から69歳。入院者を除く。）の検診を受診した者の割合を性別にみると、「胃がん検診」は男が54.2%、女が45.1%、「子宮がん（子宮頸がん）検診」（女のみ）は43.7%、「乳がん検診」（女のみ）は47.4%となっている。

また、いずれの検診においても上昇傾向となっている。（図24）

（参考） 「第3期がん対策推進基本計画」の目標
がん検診の受診率の向上 目標値：50%【2022（令和4）年度】

図24 性別にみたがん検診を受診した40歳から69歳（胃がん検診は過去2年間については50歳から69歳、子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳）の者の割合



注： 1) 入院者は含まない。
2) がん検診の受診率については、「がん対策推進基本計画」（平成24年6月8日閣議決定）に基づき、算定年齢対象を40歳から69歳（子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳）までとした。
3) 胃がん検診の受診率については、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成20年3月31日厚生労働省健康局長通知別添）の一部改正に基づき、2019（令和元）年調査以降は過去2年間の受診率についても算定し、過去2年間の受診率の算定対象年齢は50歳から69歳までとした。
4) 2016（平成28）年の数値は、熊本県を除いたものである。